

剣岳南壁 A1～立山～龍王岳東尾根 堀江 誠克

■山行年月日:2022年5月3日～5日

■メンバー:堀江誠克 東山高志(非会員)

前日、待ち合わせ場所の扇沢の無料駐車場に車中泊。5時半、今回のパートナー東山君がやってきた。2月の高瀑以来、三か月ぶりの再開だ。相変わらず100Lの巨大なザックを背負って登場。始発のバスを予約していたので、乗り継ぎもスムーズに8時、室堂着。この時期の室堂は初めてだが、雪の量に圧倒される。天気は快晴。前日に振った新雪がまぶしい。すでに、ファーストトラックを狙ったスキーヤーやボーダーがあちらこちらで斜面を登っている。

準備して出発。天気が良いすぎて暑い。東山君は相変わらずパワフルで別山乗越までの斜面をポールもなしで軽やかに登っていくが自分は四輪駆動でノロノロ進む。ふと見上げると雷鳥沢をスプレーを上げながら降りてくるスキーヤー、ボーダーが目に入る。今回の目的はアルパインクライミングであるが、BCスキーやボードでも是非訪れたい場所だ。

別山乗越につくと、新雪をまとった剣岳が目の前に現れる。文句なしにカッコイイ。当初は池の谷をつめて剣尾根のR4とチンネの計画だったが事前の情報でR4に氷のカケラも無いことが判明し、急遽南壁へ変更したのだが正解だった。小休止の後、剣沢の幕営地へ下る。テン

トを設営し、17時就寝。

5月4日

1時起床、2時出発。地吹雪がひどいが、天候はよいはずだ。45分で平蔵谷出合へ。ここから、ひたすらラッセルの登りとなるが、東山君は下りと同じぐらいのペースで淡々と登っていく。こちらはついていくのが精一杯。結局、一度もラッセルを交代することなくオールセカンドで楽をさせてもらった。申し訳なきで一杯だが、体力の差は歴然だ。平蔵の科尔近くまで登り、南壁の下まで来たが、大量の雪に埋もれて取り付きがよくわからず、右往左往する。錆さびの残置ピトンから取り付く。



剣岳南壁 A1の登攀ライン

1p目、(夏の2p目)大きな段差を越えて一旦、右のテラスに移り左の凹状から右のカンテへ。40m。2p目、カンテを左に回り込み、もろいリッジ状を40m。3p目、よく覚えていない。20m。4p目、短いワイドクラックからもろいカンテを右に左に蛇行しながら緩傾斜帯まで。35m。5p目ハイ松からもろい岩場を左上、カ

ンテ上へ。30m。5p目、正面のピナクルを左に巻きながら緩いリッジ上へ。35m。6p目、左側が切れ落ちた傾斜のないボロリッジを小コルまで。ここでロープを解き、小休止。最後の雪壁をダガーポジションで登り、山頂へ。

素晴らしい展望を満喫して別山尾根をのんびり下る。特に難しいところもなく、14時、幕営地着。

5月5日

3時半起床。4時出発の予定が、グダグダしているうちに5時を過ぎてしまう。今日も天気が良い。

テントを撤収し、剣沢を登り返す。剣御前小屋で休憩していると山本一夫さんがいた。南壁A1を登ったという、珍しいと驚かれた。ここから別山、真砂岳、富士ノ折立、雄山と稜線を縦走し一ノ越まで。一ノ越でギアを身に着け、龍王岳東尾根に向かう。11時取付着。靴ひもを締めなおし、とりあえず、ロープを付けずに登りだす。ところどころに出てくる岩場も巻き道があり、意識して岩を登らないとクライミングにならない。二人ともできるだけ岩場の弱点ではなく、強点を登っていく。11時55分、頂上。何一つギアも使わず、1時間もかからずに終わってしまった。頂上でのんびり休



龍王岳東尾根

憩し、室堂へ。室堂で、雷鳥ヒュッテ泊でBCに来ていた友人グループと合流。GWは穂高方面に入ることが多かったが、気軽にソロクライミングできるルートはほぼ登りつくした感がある。剣岳は事前の(2週間前)登山届や条例でめんどくさく感じていたが、いざ来てみると魅力的なルートが沢山あり、アルペンルートの混雑を差し引いても今後も来たい場所であると感じた。そのためには何より重荷で行動できる体力をつけないといけない。



剣岳山頂にてタックこと東山君と